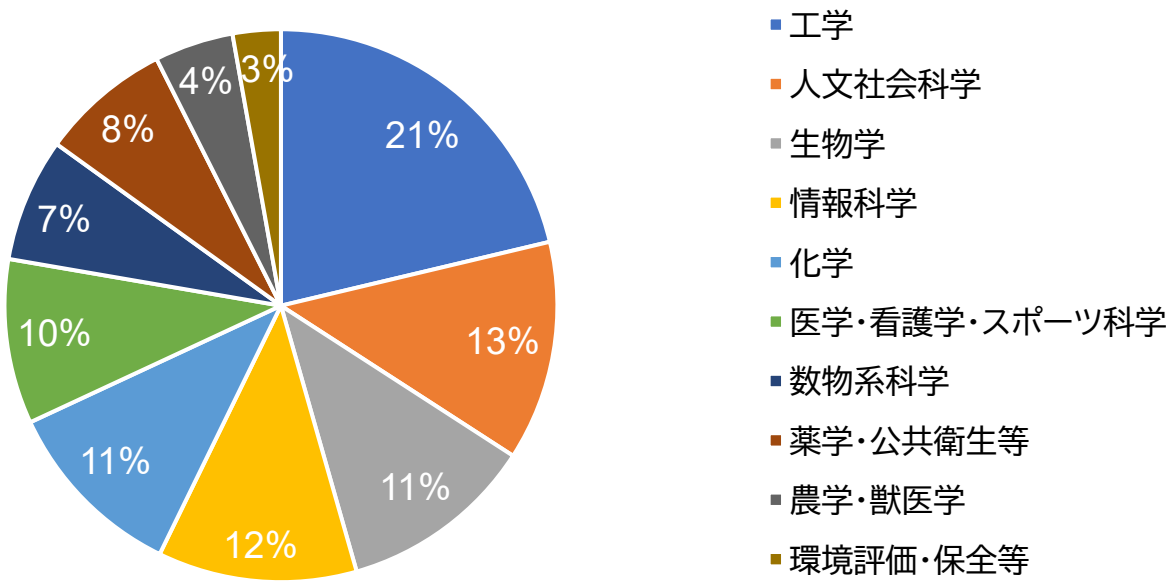
資料2
ジョブ型研究インターンシップ推進委員会（第8回）
令和8年1月16日（金）

令和７年度学生・企業・大学アンケート結果（概要）

（１）令和７年度　学生アンケート

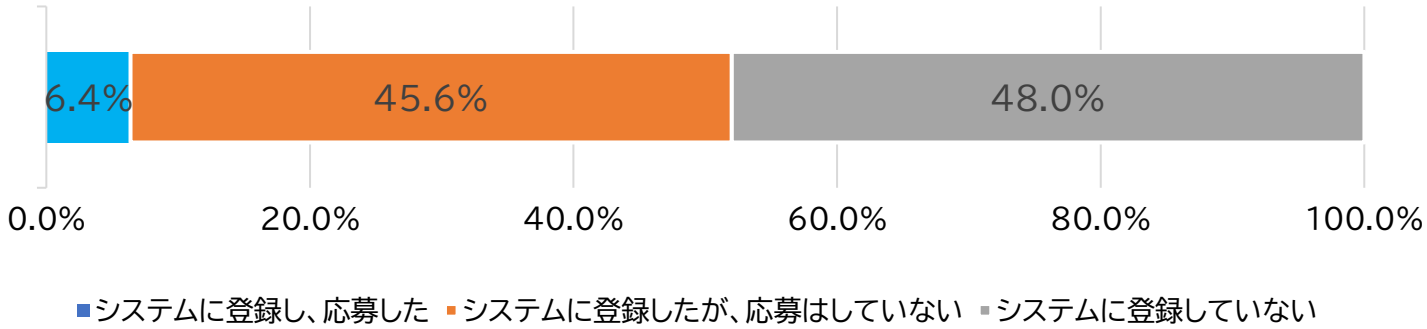
- 回答期間：令和7年12月9日（火）～12月26日（金）
- 対象者　：ジョブ型研究インターンシップ推進協議会の参画大学に所属する博士課程学生　※システム未登録者も含む
- 回答者数：498名（日本語 376名、英語 122名）
- 実施形式：オンライン
- 実施者　：ジョブ型研究インターンシップ事務局（株式会社アカリク）

回答者の研究分野内訳（n=498）



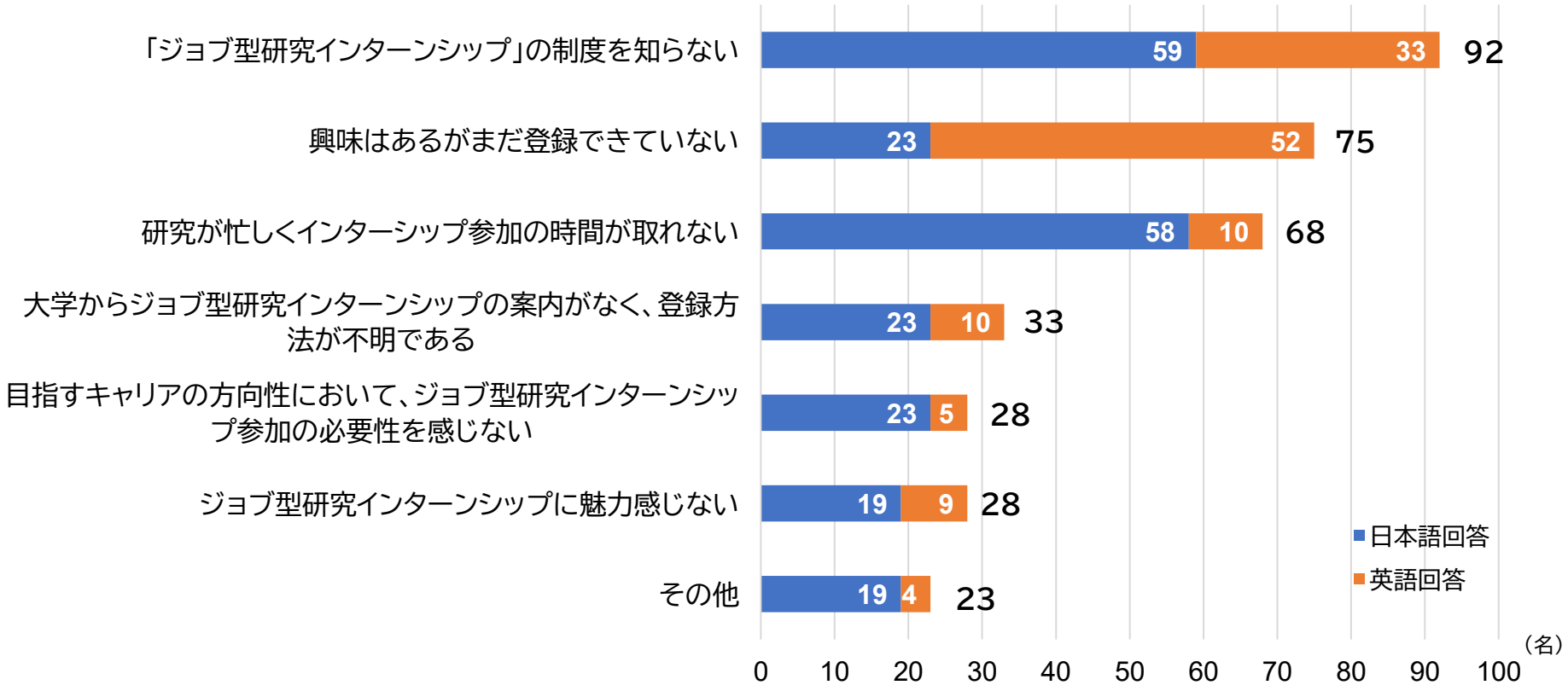
すべての回答者の方へ -登録・応募について-

【問1】ジョブ型研究インターンシップのマッチングシステムに登録しましたか？また、実際にインターンシップに応募しましたか？



システムに登録していない方へ

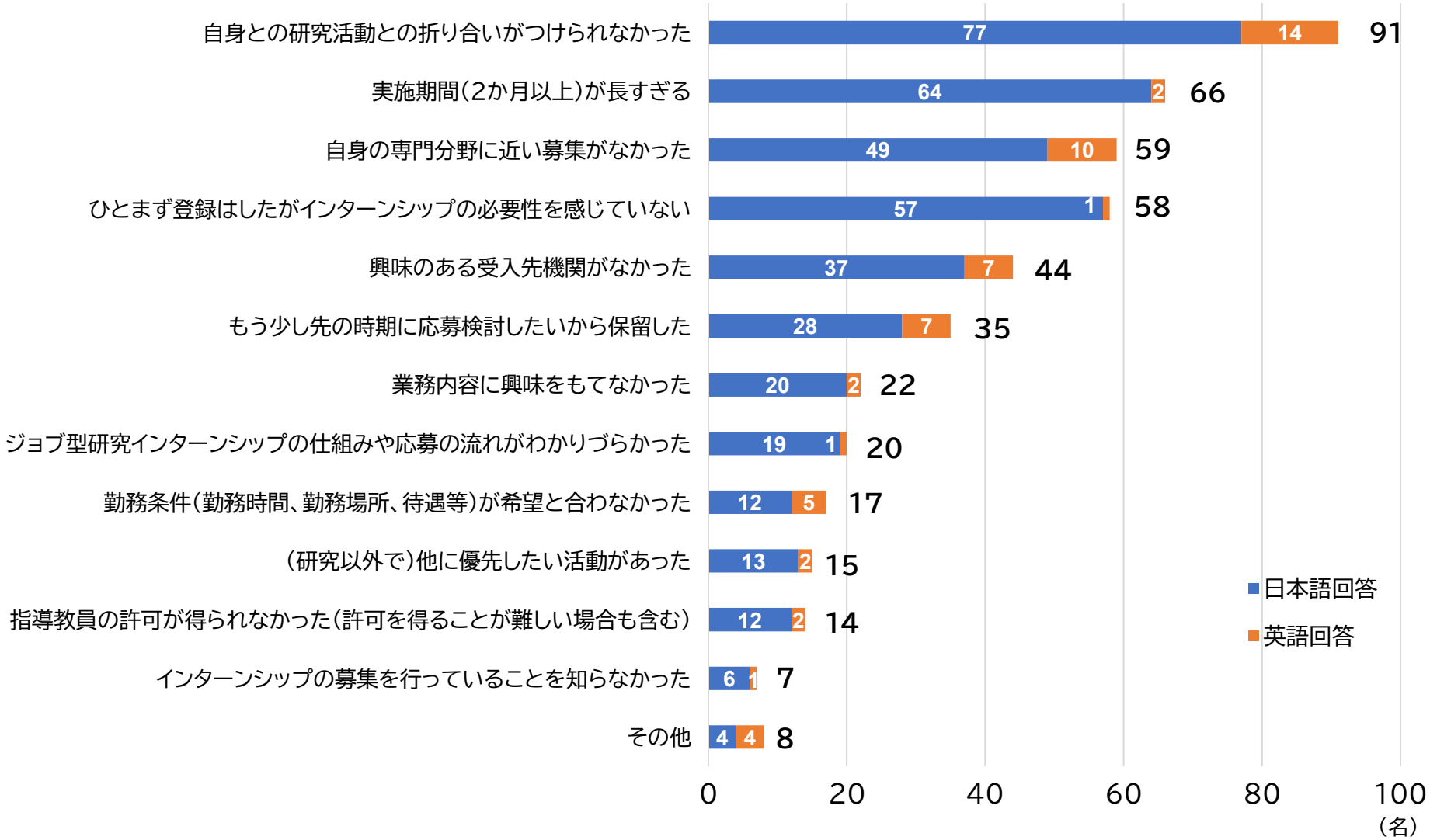
【問2】システムに登録していない理由として当てはまるものにチェックを入れてください。
（複数回答可）



※「その他」には、社会人学生のため、日本語が不得意といった理由が見られた。

システムに登録したが応募していない方へ

【問3】応募しなかった理由について当てはまるものを全て選択してください。（複数回答可）



システムに登録したが応募していない方へ

【問4】問3で選んだ回答についてのより具体的なご意見や、「どのように改善されれば応募したいか」について、自由にご意見をご記入ください。（Part1）（※事務局で一部抜粋）

＜募集分野・職種の多様性に関する要望＞

- 理系の研究開発職の募集が多い印象がある。学術出版社や教育機関、シンクタンクなど、**文系職でも応募しやすい募集があれば**、学生の応募意向は高まるのではないか。**文系学生が企業で発揮できる成果や適性のある業務**についても示していただけると良いと感じました。
- 理学系だと、関連する分野がほぼなく、応募はかなり難しいと感じました。工学や薬学だけでなく、**様々な分野・専攻でも応募できるようなものがあれば**いいと思います
- いくつかのインターンシップについて募集要項を見たが、**求められている分野・専攻に偏り**があるように感じた。生物学系だとそもそもほとんど募集がなく、そこから自分の研究対象や扱っている手法などの専門性とすり合わせて検討していくと**応募できる案件が見つけられなかった。**

＜期間・時間的制約・研究との両立に関する懸念＞

- 博士のキャリアを考えた上で、**研究にかけるべき時間を浪費してまで行く価値のある**受入先企業が無かった。
- 大学院生、**研究時間以外にそんな暇はない**はずです。
- **期間が長すぎる。**研究が本分である博士課程学生に1ヶ月や2ヶ月を割くことは極めて困難である**. 採用に直結するなど「インターンシップのやり甲斐」が欲しい。**実施できたとしても採用されるか分からないインターンシップの応募に時間を費やすことは、精神的に苦痛である。
- 近い分野で興味のある応募先は複数あったが**通える範囲ではなく、研究室との両立が難しかった。**

システムに登録したが応募していない方へ

【問4】問3で選んだ回答についてのより具体的なご意見や、「どのように改善されれば応募したいか」について、自由にご意見をご記入ください。（Part2）（※事務局で一部抜粋）

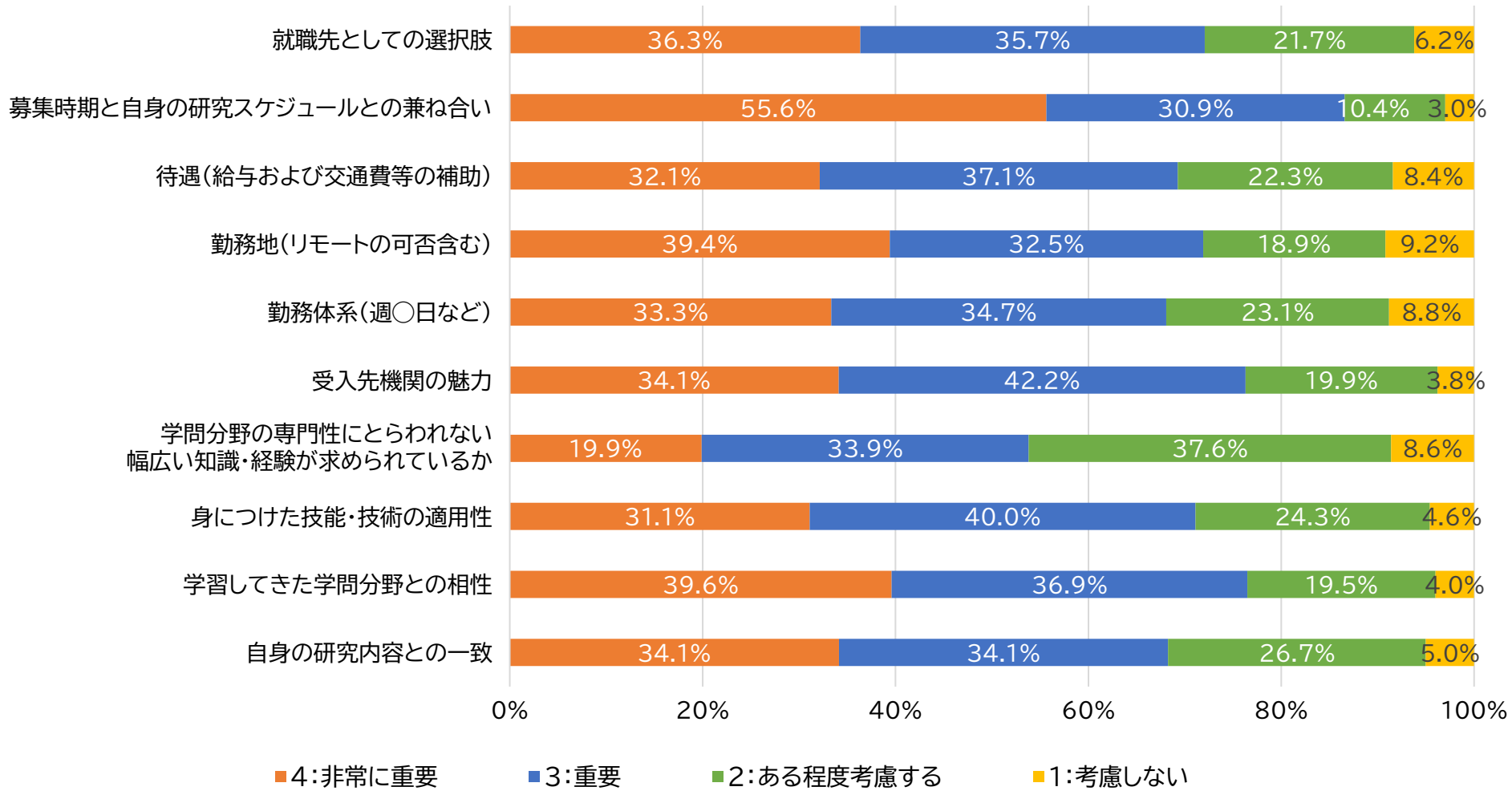
＜情報・制度・環境に関する要望・意見＞

- **留学生が応募できる企業が非常に少ない**ため、多様性を重視し、留学生を広く受け入れる企業の取り組みについても紹介していただければ、より良くなると思います。
- 興味はあるが、勤務先等の条件で応募に踏み切れないことが多かったため、**リモート勤務が可能な受け入れ先が増える**と応募しやすくなります。
- **インターンシップの必要性や、インターンシップをしなかった場合の不利益について、より分かりやすく説明してほしい。**

＜専門性のミスマッチ・機会の絶対数の不足に関する懸念＞

- **実施企業が少なく**、専門分野を生かすことのできる企業が数社しか存在しないことが参加していない大きな要因である。ジョブ型研究インターンシップを実施する**企業の数を増やす必要がある。**
- **応募できる企業が少なく**、興味のある企業と自分の**専門性のマッチングが難しかった。**
- 企業の募集要項と自分の**研究分野のマッチング度が低く**、応募する企業を選定することが困難であった。

【問5】応募先を選択する際、以下のいくつかの基準についてどの程度重要視するかを4段階で入力してください。



【問6】問5で重視すると回答した項目が具体的にどのような内容であれば応募したいと思いますか。
また、問5の選択肢以外に重視する事項があれば教えてください。（Part1）（※事務局で一部抜粋）

＜研究との両立・スケジュールの優先＞

- 博士課程学生にとって**博士論文の執筆が本分**であり、**研究活動に支障のない勤務体系や勤務地、日程が重要**。特に人文系の場合、公文書館など利用が平日に限定されるケースなどもネックとなる。
- 博士課程では論文を出せるような研究成果を出す必要があるので、**研究に支障が出ないようなスケジュール**のインターンシップであれば応募したい。
- 論文を投稿する場合、査読の時期とかぶるとその機会を失うことになるため、できる限り**研究スケジュールは優先**したい。
- 特に、生命科学系の高学年の博士学生はアカデミアに残るか残らないかを強く意識する時期である。そのタイミングで研究成果が出ない学生に対しては不可のない範囲で、リモートワークやそれ相応の対価を伴う変則勤務等を通してごく短時間でもインターンシップを受ける機会があり、就職と言う選択肢を維持できれば良いと考える。

＜専門性・スキルアップ・応用性＞

- 理論物理学で用いたモデル化の知識や微分方程式などの数値計算の技術を活用したい。
- 特に自分の**研究で応用が利きそうなことをインターシップで学びたい。**
- 自分の研究分野の最新動向はアカデミックだけでなく、**産業界でどんな価値あるのかを、インターンシップを通じて、もっと知りたい**と思っています。人工知能の迅速かつ飛躍的発展の中、企業でどんな研究型人材を必要するかを分かれば、これからの研究に新たな応用的な価値を見出せるかと思っています。

【問6】問5で重視すると回答した項目が具体的にどのような内容であれば応募したいと思いますか。
また、問5の選択肢以外に重視する事項があれば教えてください。（Part2）（※事務局で一部抜粋）

＜キャリア・就職への直結度＞

- **採用選考に有利**になったり、就職活動で話せる経験ができるのであれば、参加しやすいかもしれません。
- 自分が成長できるようなものであったり、**キャリア選択に影響を与える**ようなものであればよい。

＜勤務条件・待遇・費用補助＞

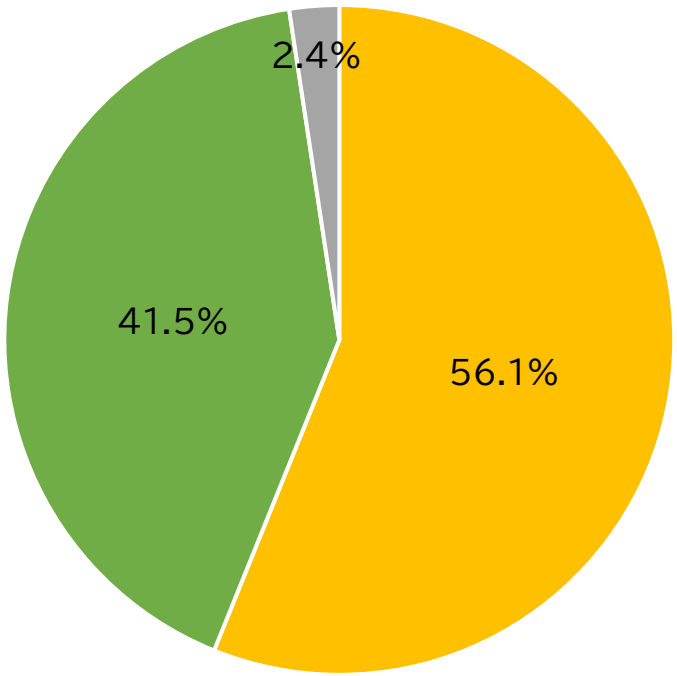
- 例えば**勤務地が近傍**で、現在の住家で暮らしながら**普段の研究活動と並行できる**とよい。
- 長期間県外へ出向く場合、**宿泊費や交通費が掛かり生活が困難になる可能性**があるため支援があると良い。

＜募集分野の多様性・企業の受入姿勢＞

- 文系の募集が極端に少なく、応募できる企業があれば直接研究につながってなくても応募してます。**文系学生の受け入れに対して寛容な企業を探してほしい**です。
- 文系の場合、特に**社会学の場合は市町村などの自治体や、シンクタンク**といったものが挙げられると思いますが、なかなか自分の研究領域と合致した募集先がないため、例えば**社会調査を請け負っている企業などがあればぜひ検討してみたい**です。
- 専門性については、完全なマッチングはしなくても良いが、化学の素養が求められる分野が良いと思う。分野が狭すぎると**分野外の人はジョブ型インターンシップに参加出来る機会がなくなるため、幅広く専門性を求めた方が良いのではないか**と思う。

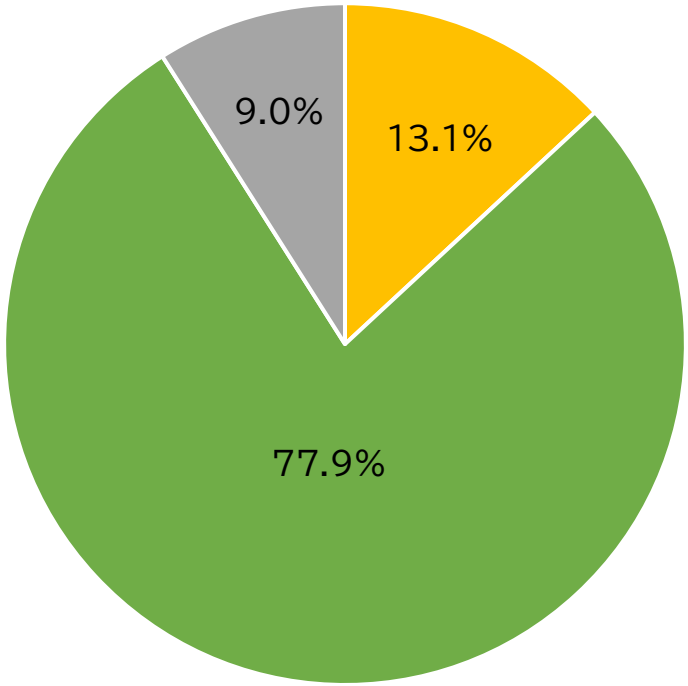
【問7－1】ジョブ型研究インターンシップは2ヶ月以上という期間の定めがありますが、これについてどう思いますか。

日本語回答

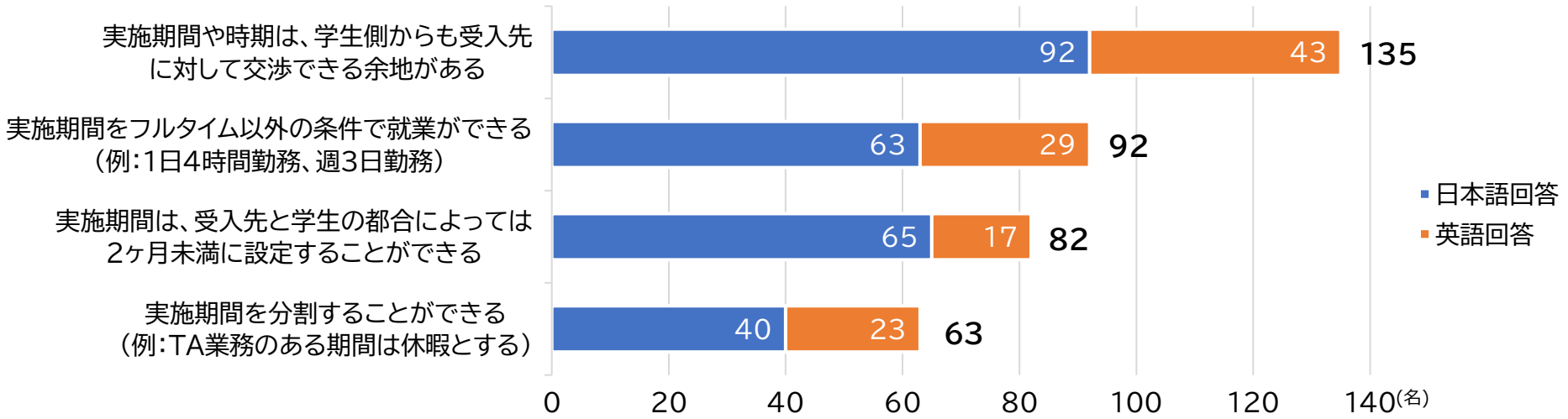


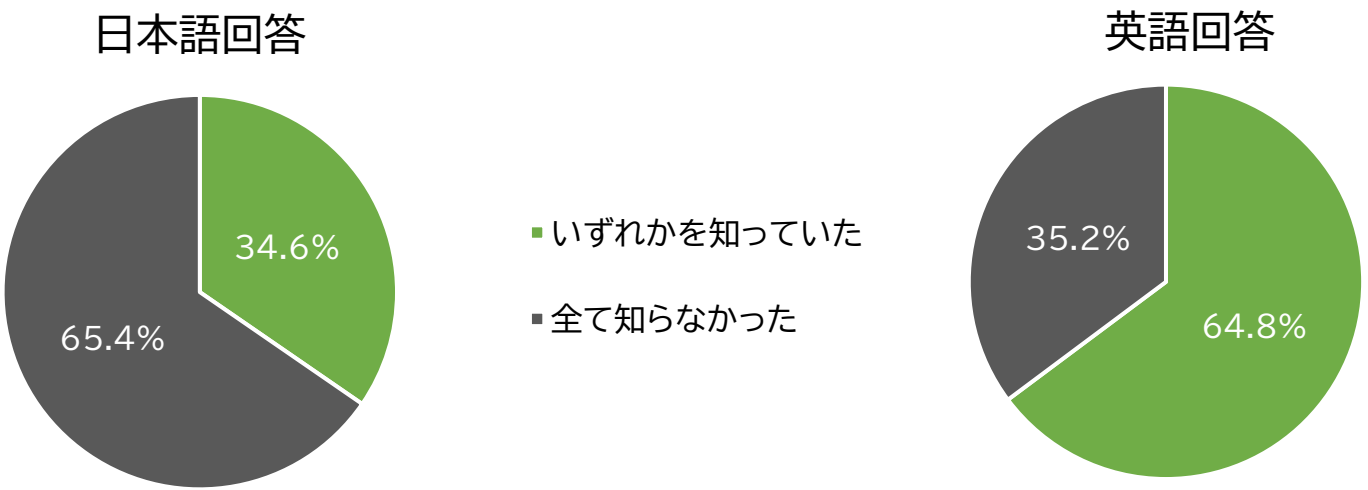
長い
ちょうどよい
短い

英語回答



【問7－2】ジョブ型研究インターンシップの実施期間に関して知っていたものを教えてください。

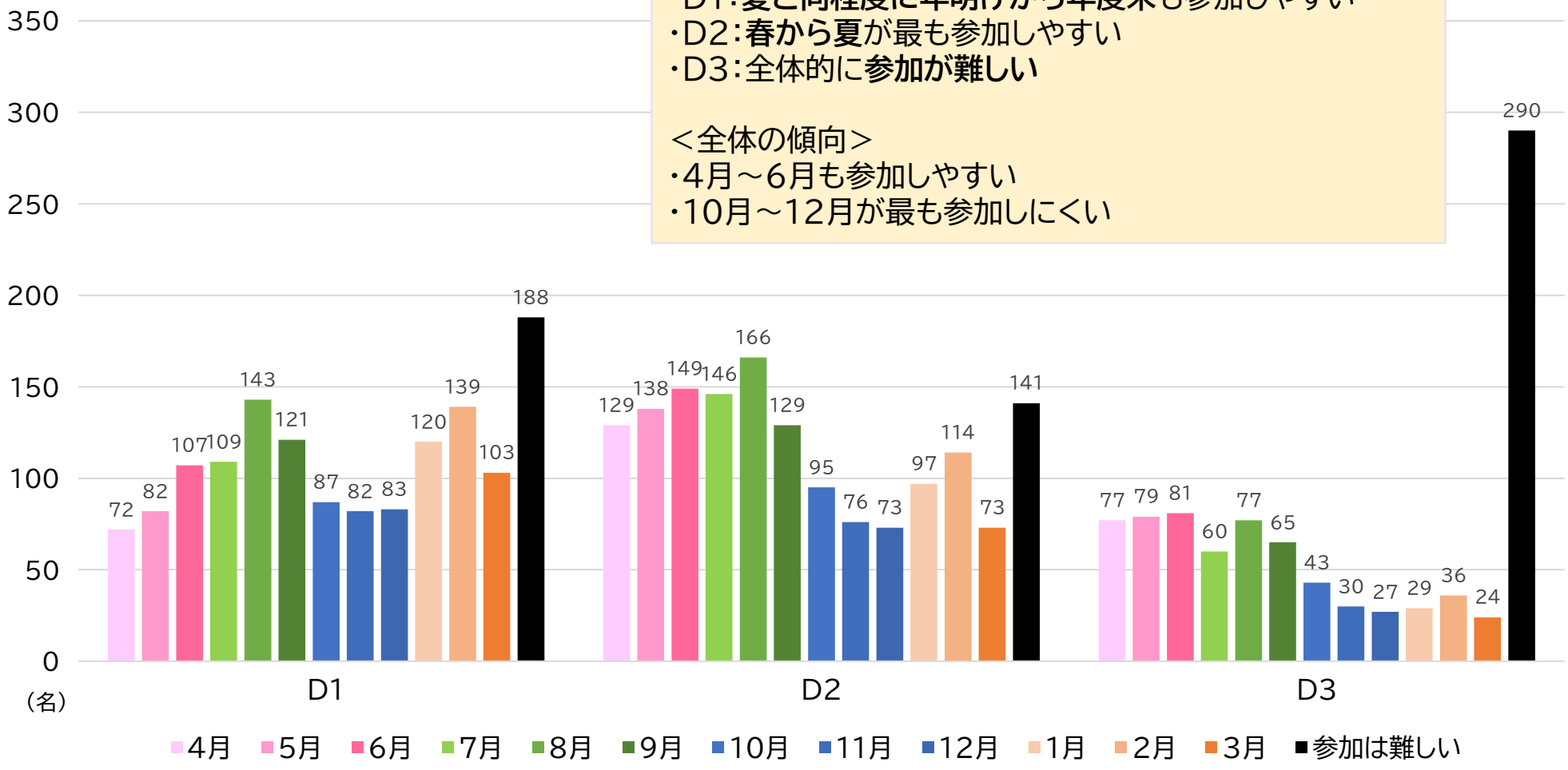




【問8】2ヶ月間のインターンシップに参加しやすそうな時期を教えてください。（回答者の学年によらず D1～D3それぞれについて回答）

＜学年別の傾向＞
・D1：**夏と同程度に年明けから年度末**も参加しやすい
・D2：**春から夏**が最も参加しやすい
・D3：全体的に**参加が難しい**

＜全体の傾向＞
・4月～6月も参加しやすい
・10月～12月が最も参加しにくい



【問9】2ヶ月という実施期間や参加可能な時期について、ご意見や補足事項があればお教えください。
（Part1）（※事務局で一部抜粋）

＜期間の長さと研究活動への影響に関する懸念＞

- 博士後期課程からの入学の場合、**インターンシップで2ヶ月も取られたら学位申請に間に合わない。**
- 博士課程の学生が**1週間以上研究活動をストップ**することは、まともな博士学生であればあるほど**難しい。**
- 手を動かす研究をしているので、**2ヶ月拘束されるのは、研究が完全に止まる可能性があるので、厳しい。**

「2ヶ月以上」は長い

＜時期・スケジュールの調整に関する要望＞

- 大学の長期休暇期間中なら1ヶ月程度であれば比較的まとまって参加できる可能性がある。しかし**連続参加できるかは研究のフェーズによる。**例えば実験実施期間中や、査読対応のように期限があるフェーズでは連続参加が難しい。
- 就活に良い顔をされない研究室のため、そもそもこういう**長期間研究を離れることが許可されない可能性**がある。
- 春は学振、秋は学会が多く参加できない。また夏は実験対象の生物の採集や飼育が忙しく参加できない。2ヶ月間実験・飼育をストップさせるのはあまり現実的でない。
- **実験計画や学会参加の時期との兼ね合いを考慮する必要がある**ので、長期インターンシップの**スケジュールを何ヶ月も前に早めに連絡**していただくと助かります。

スケジュールに大きく左右される

【問9】2ヶ月という実施期間や参加可能な時期について、ご意見や補足事項があればお教えください。
（Part2）（※事務局で一部抜粋）

＜勤務形態に関する要望＞

- **2ヶ月間研究室を離れるのは現実的ではない**が、オンラインなら参加を検討する。
- 実施期間中に連続ではなく、**毎週末など分割して参加可能であればなおよい。**

分割して実施できると参加しやすい

＜参加の目的・価値に関する意見＞

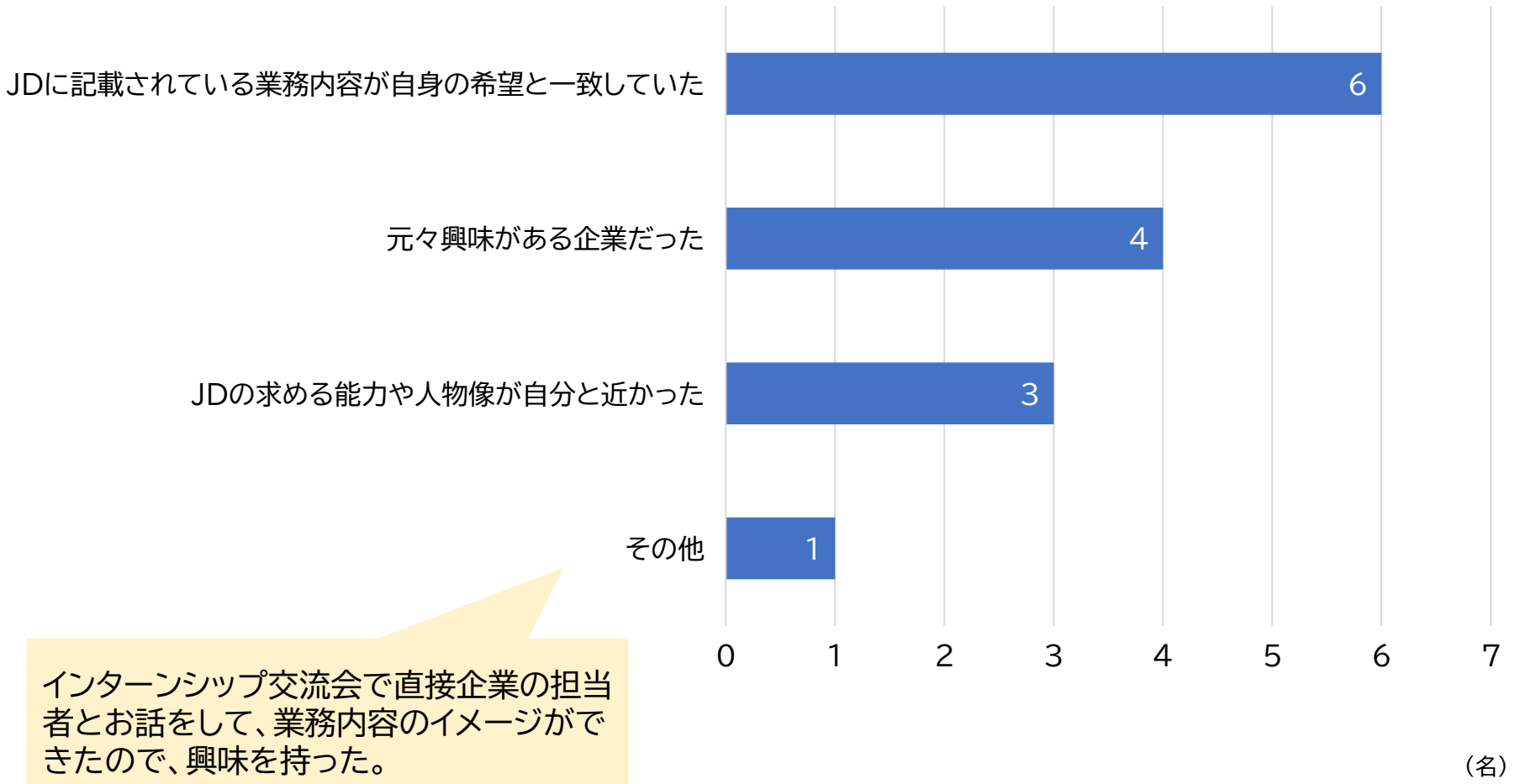
- 博士課程の研究を考えると、基本的に参加は困難。企業文化を知るためにとりあえず参加してみようといった**軽い気持ちで参加できるものでもなく、そもそも検討しなかった。**
- 企業が通常の選考フローで行っている**1～2週間程度のインターンシップに参加する方が遥かに有意義。**なぜ学費を払いながら企業の研究をしなければいけないのか。
- 自身の博論研究との兼ね合いを考えると長いように感じるが、**今後の就職につながるのであれば必要・妥当な長さであると納得できる。**
- 法学部の博士課程在学中は、時間的余裕は比較的ある反面、**経済的理由で研究の継続が困難になる場合も多いため、どちらかと言えば通年で（欲をいえば、時間労働ではなく業務委託等の成果報酬制で）働きながら研究を行いたい。**

参加することで得られる価値が不明確

（２）令和７年度　実施後アンケート（速報）

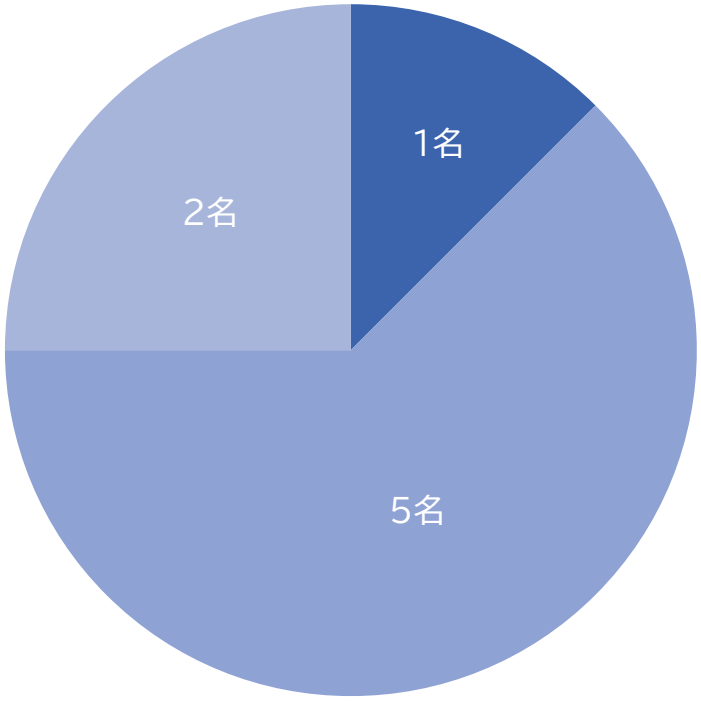
- 対象者　：令和７年度実施に参加した博士学生
- 回答者数：８件
- 実施形式：オンライン
- 実施者　：ジョブ型研究インターンシップ事務局（株式会社アカリク）

【問1】今回応募した企業はどんな理由で選んだか教えてください。（複数回答可能）



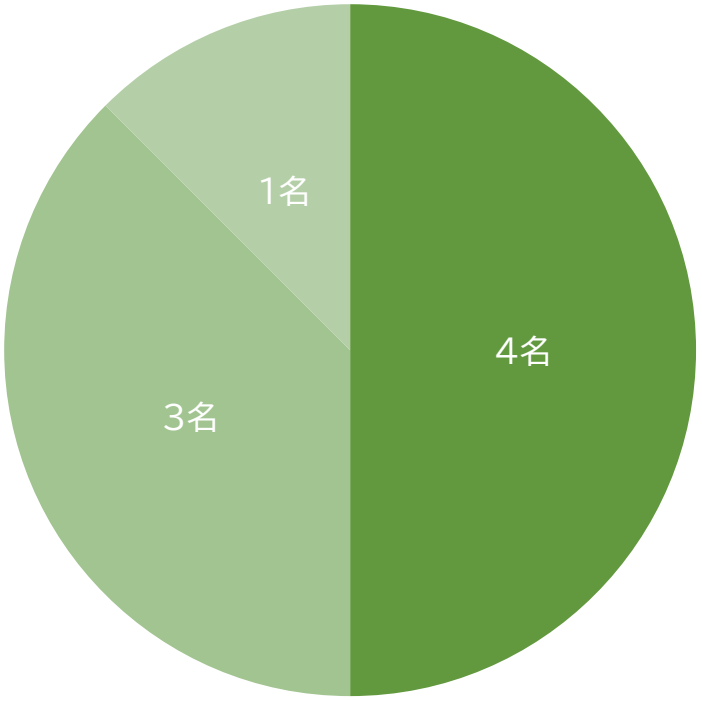
インターンシップ交流会で直接企業の担当者とお話をして、業務内容のイメージができたので、興味を持った。

【問2】インターンシップの期間について教えてください。



- もっと長い期間働きたかった
- 働いた期間はちょうど良かった
- もっと短い期間で働きたかった

【問3】受入先でのインターンシップ全体の感想について教えてください。



- 期待を上回る良い経験だった
- 期待どおりだった（JDの記載と概ね一致）
- 期待したほどの経験ではなかった

【問4】問3の回答を選んだ理由を教えてください。（事務局で一部抜粋）

＜ポジティブ＞

- **他分野の研究でも自分の力が活かせる**と感じたから。
- 自分が期待していた**実社会の問題に対して最適化問題を適用する取り組みが行えた**ため。
- 実際に企業で働くことのイメージが湧くような体験をさせていただけたから。また、企業の研究者の方もとても優秀なので、その方々から**色々実験アドバイスをいただけることで自分の研究力も養えた**と感じたから。
- 異なる分野で研究職として働くことのイメージや、**博士課程で培ったスキル・経験をどのように活かしていけば良いか学ぶことができ**、今後の、就職活動における視野が広がりました。
- 企業の研究としての責任やビジネスへの関連性など、**アカデミックでは経験することができない内容にも触れる**ことができた。

＜ネガティブ＞

- ジョブディスクリプションに書いてある通りではあったが、体感的に**業務内容が物足りない時期もあった。**外部とやり取りする場などにも同行させていただき、貴重な体験をさせていただく機会もあったが、良い点も悪い点も感じた。

【問5】インターンシップを通して得られた学び・気づきを教えてください。（事務局で一部抜粋）

- 会社の人たちと話すことで、**コミュニケーション能力が格段に上がった。**
- 実社会への最適化の適応に際して、これまでの理論を扱った研究ではなかったような、**複雑な制約を持った問題に取り組むことで実社会に問題を適用する難しさを知ることができた。**
- 会社での研究のテンポ感や方針などを知ることができた。
- 異なる分野で研究をするために、どのような能力が重要になるか学ぶことができ、実践を通してさらに伸ばすことが出来た。**今回の経験ではトランスファラブルスキルが重要になることを学びました。**
- **社会を知るという意味では非常にいい経験**だったと思います。
- 個々として活動するアカデミックに対して、企業全体のプロジェクトの一端を担うことの違いを知る事ができた。製薬企業としての責任とサステナビリティの明確化などがしっかりとしていた事が最大の学びとなった。

（参考：文部科学省でのインターンシップ参加者）

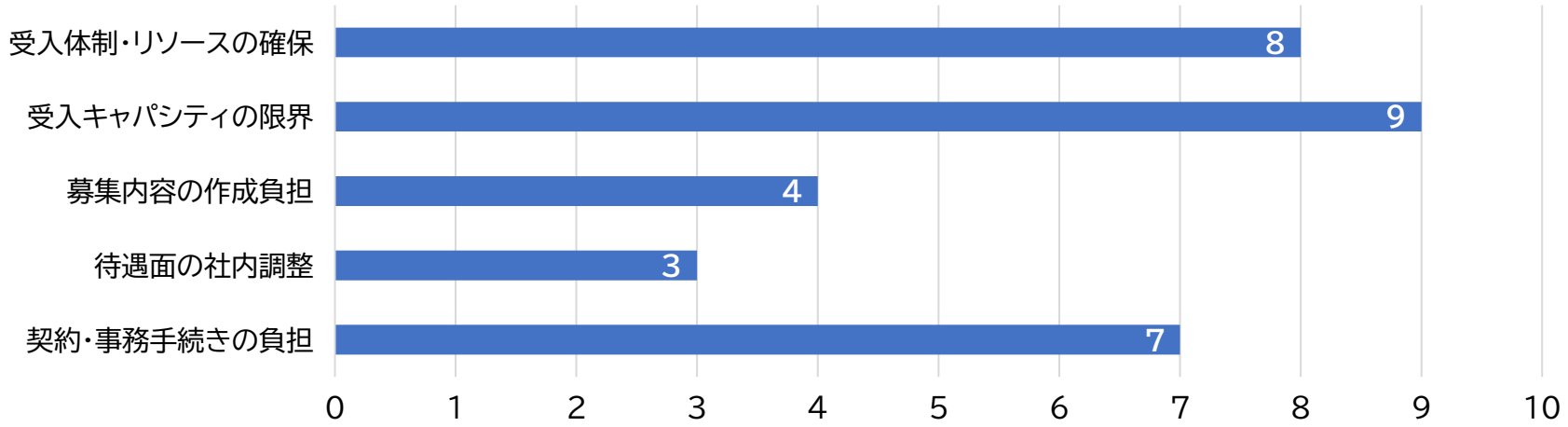
- 今までは研究室や研究所から見て、博士課程の学生が少ない、より活発に研究を行うためには博士課程の学生を増やすこと、研究室内外で情報を共有していくことが必要だと考えていました。この課題に取り組むために文科省のインターンシップを希望しましたが、実際に文科省に行くと、文科省として何ができるのかを考えることを求められ、自分の課題感と文科省の組織としての価値観に差があることに気が付きました。今回のインターンでそこを埋めることはできなかったですが、理解することはでき、ギャップに悩む経験ができたことが大きな学びになったと考えています。
- 自身の研究開発費や、専門分野である南極地域観測が省内ではどのように意思決定されるのかを実際の業務として知ることができた。

（３）令和７年度　企業・大学アンケート（速報）

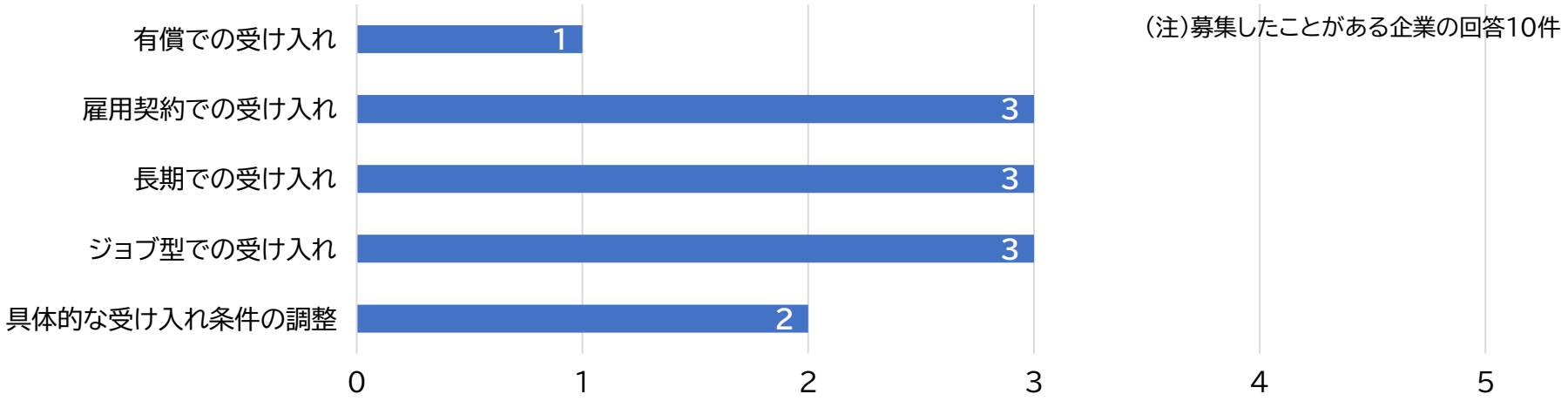
- 回答期間：令和7年12月17日（水）～
- 対象者　：会員企業及び会員大学
- 回答者数：企業12件、大学46件
- 実施形式：オンライン
- 実施者　：ジョブ型研究インターンシップ事務局（株式会社アカリク）

【企業向けアンケート】

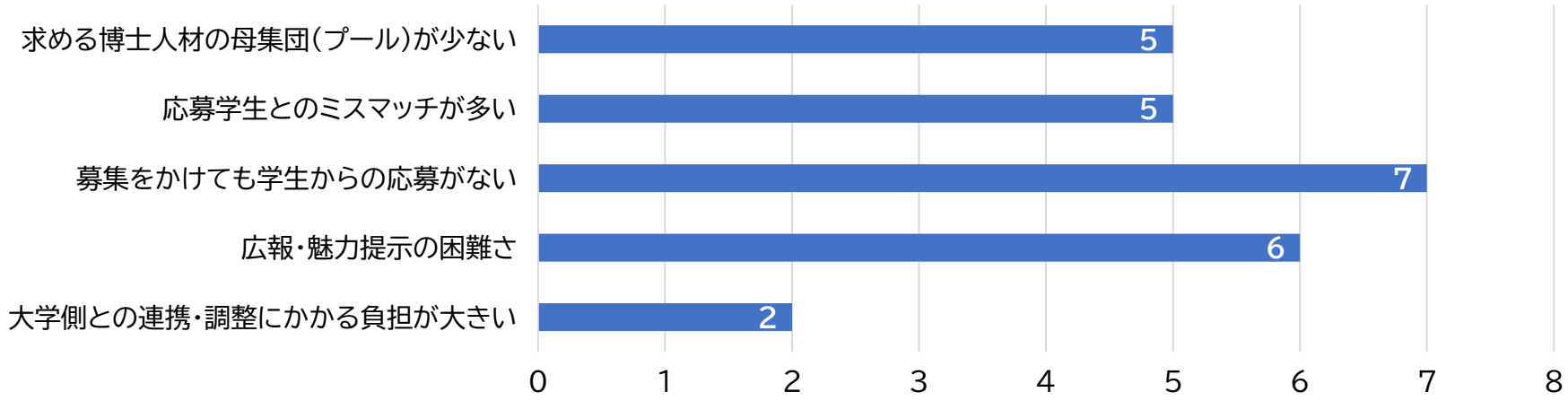
【問】ジョブ型研究インターンシップの実施にあたり、貴社内部のリソースや体制に関する課題として影響が大きいと考えられるものをすべてお選びください。（複数回答可）



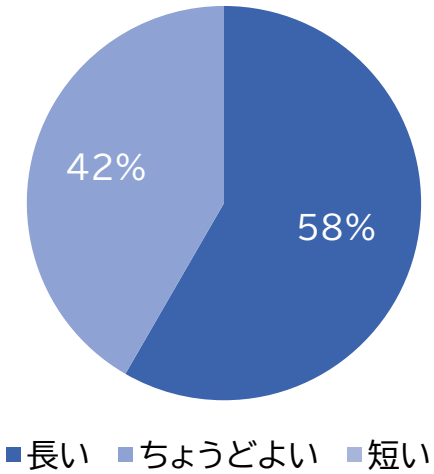
【問】募集したことがある場合、募集にあたって困難だった事項を教えてください。（複数回答可）



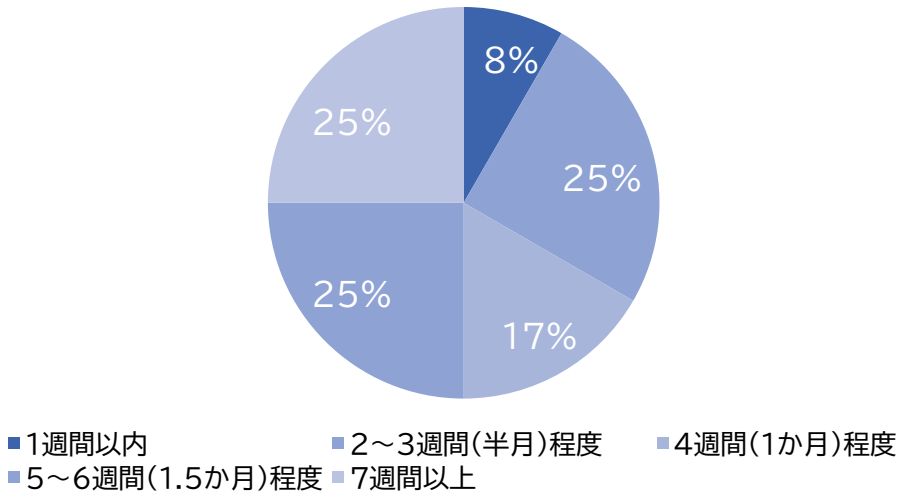
【問】学生や大学との関係性に関する課題として、影響が大きいと考えられるものをすべてお選びください。（複数回答可）



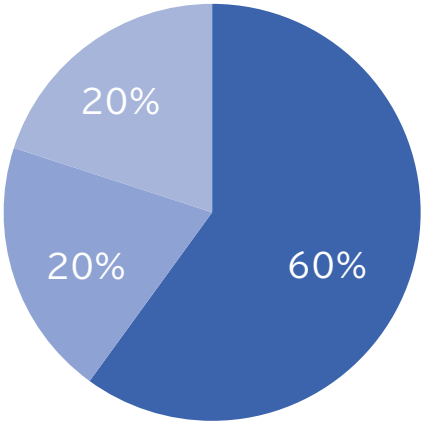
【問】実施期間の認識について。



【問】契約・事務手続きの期間について。



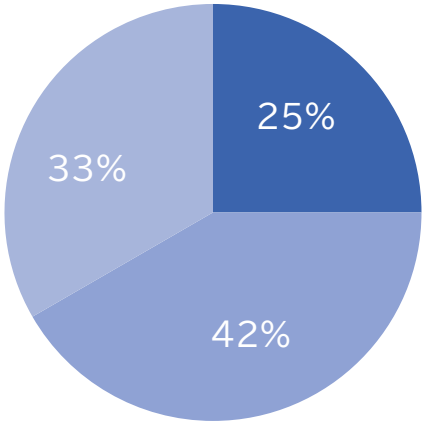
【問】これまでにジョブ型研究インターンシップを介して接点を持った博士学生に対して、内定を提示したことはありますか。



- 内定を提示し、入社(見込み含む)となったことがある
- 採用選考を案内していない
- その他

・選考案内時に辞退された
・採用したい人材像とは異なった

【問】ジョブ型研究インターンシップ以外に、博士課程学生を対象としたインターンシップを実施していますか。

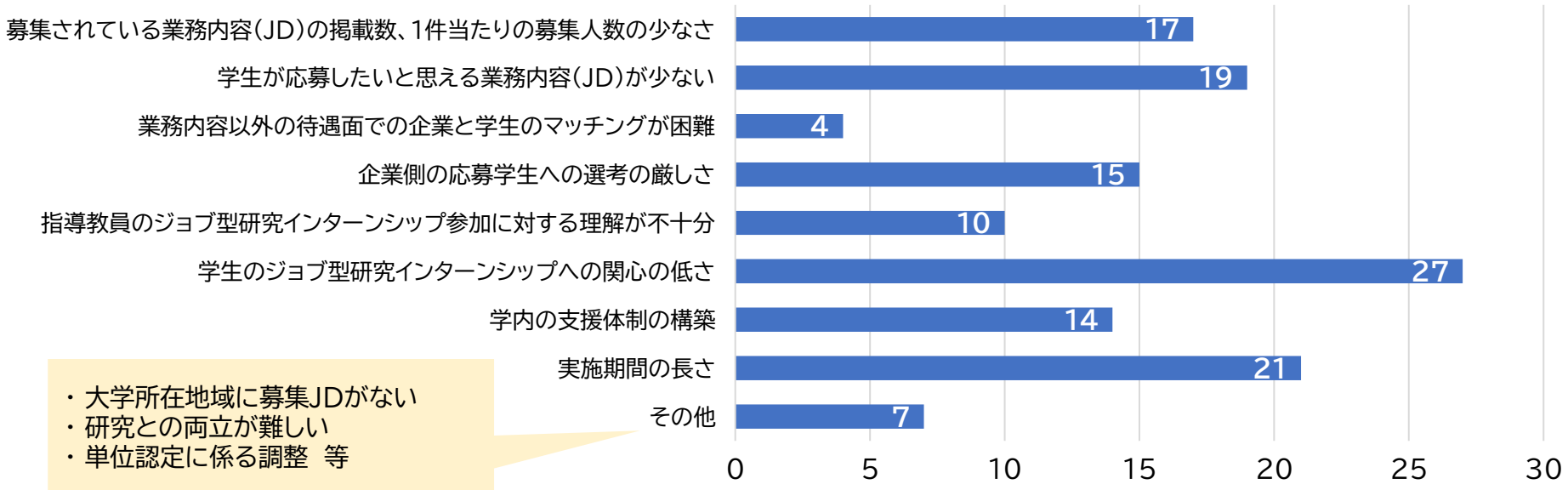


- 博士学生のみを対象としたインターンシップを実施
- 博士学生も参加可能なインターンシップを実施
- 実施していない(予定もない)

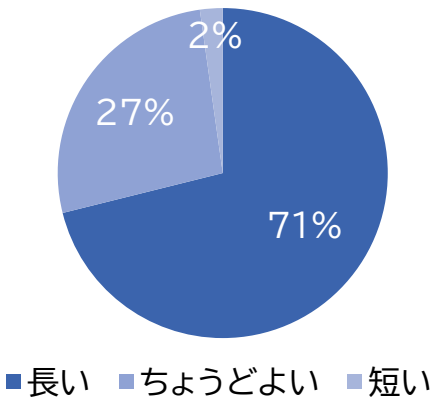
博士学生のインターンシップの受入人数
R7：14名(5社)

【大学向けアンケート】

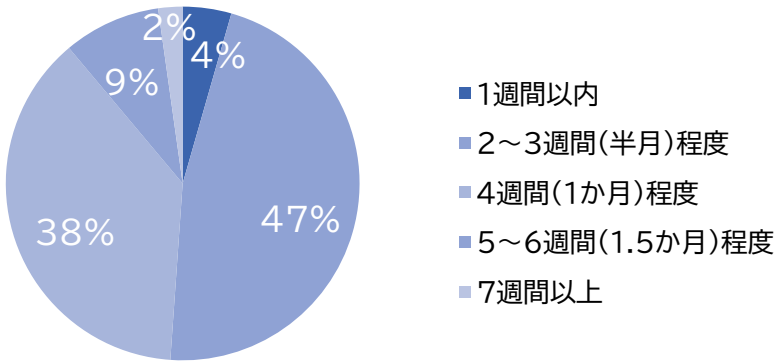
【問】ジョブ型研究インターンシップの実施にあたり、課題となっている要素として影響が大きいと考えられるものを教えてください。（複数回答可）



【問】実施期間の認識について。



【問】契約・事務手続きの期間について。



【企業の意見等】

- ◆ **ミスマッチを少なくする方法として、学生のプロフィールをより詳細に記載しもらうのがよいのではないか**（自身のキャリアについての考え、プログラミングスキル、インターシップ経験の有無、アルバイトの経験など）
- ◆ 学生からは、ジョブ型研究インターンシップを知らないと言った声もあり、**学生の認知度が低い**のではないか。
- ◆ 中小企業の募集では応募数は少ないが、就職先としてだけではなく、幅広い目的でインターンシップを実施していることが学生に伝わればより応募をしてもらえるのではないか。
- ◆ ある程度学生の状況にあわせてJDを提示することも検討したいため、**学生の登録が多い、インターンシップに参加しやすい、タイミングを示してほしい。**
- ◆ 実施にあたって雇用契約での受け入れを行うことが困難である。
- ◆ 大学との実施契約書の締結において、法務関係の確認も必要となる期間を要し煩雑である。

【大学の意見等】

- ◆ 応募したものの、企業の選考時点で**不成立となった学生に対してのサポートを手厚く**行ってほしい。
- ◆ プロフィール上で個々の学生がインターンシップに参加する意思があるのか、参加するにあたって何を重視（専門性orトランスファラブルスキル）しているのか分かるとよいのではないか。
- ◆ 現在の学生登録情報で、応募テーマへの適性を企業が判断するのは難しく、**学生の学歴（研究テーマ歴）、職歴、活動履歴、スキルなどを簡潔に記した欧米型のCVなどの形が良い**のではないか。
- ◆ 2ヶ月間という実施期間は現実的ではないのでないか。特に**地方大学の学生は負担が大きい**のではないか。
- ◆ 学生にインターンシップに参加するよう働きかけても**行きたい分野の募集がない。**JDを出していない企業へより働きかけてほしい。魅力あるジョブ型研究インターンシップではなくなってきているのではないか。
- ◆ **「義務でシステムに登録したが、これは何なのか教えて欲しい。興味がわいたら応募を検討したい」と言って面談をリクエストしてくる学生**もおり、応募促進策として一定の効果がうかがえる。
- ◆ JDへの応募状況をシステム上で大学担当者・学生側で確認できないか。
- ◆ マッチング向上に向けて様々検討しているが、**目的や理念に立ち返った上で、現在の枠組みが適当であるかどうか検討の必要があるのではないか**（有給/無給、実施期間、対象学生等）。

（出典）ジョブ型研究インターンシップ推進協議会会員意見交換会（令和7年11月21日実施）等から抜粋